

琉球大学学術リポジトリ

藤山外務大臣第1次訪米関係一件(1957.9)第2巻

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43892

(5)

調

書

訪向に關する報告
△山外務大臣国連總會出席
△アメリカ合衆国

昭和三十三年十月

藤山外務大臣国際連合総会出席及びアメリカ
合衆国訪問に関する報告（その一）

外務省

目次

一 行事日程	一頁
二 概況	五
三 国際連合関係	一〇
(一) 軍縮交渉継続並びに核実験停止に関する提案	一〇
(二) 藤山大臣の一般討論演説に関する反響	一一
四 ワシントンにおける公式会談	一三
付属 新聞発表	一七

一 行事日程

時刻	発	着	行	事	摘	要
九月十四日(土)						
二一三〇	羽田	発	JAL六一〇	空港にてステートメント発表		
二〇四〇	ホノルル	着				
二三四〇	ホノルル	発	JAL六一〇			
九月十五日(日)						
一一四〇	サンフランシスコ	着		空港にてステートメント発表	マーク・ホフキンス・ホテル	
一四〇〇				S・Pエギザミナー紙主催行事 臨席、大臣挨拶		少時間
				前記新聞社及びシエトロ共催 花火大会に出席		少時間
九月十六日(月)						
九〇〇	サンフランシスコ	発	TWA 一二			
二〇二六	ニューヨーク	着		空港にてステートメント発表		ホテル・ドレーク
	(インターナショナル空港)					
九月十七日(火)						
一一〇〇				大臣主催午餐		AA 諸国代表招待

一五〇〇

九月十八日(水)

一三〇〇

一四四五

二〇〇〇

国連総会に出席

大臣主催午餐

日本向け国連放送

アラブ・アフリカ代表招待

九月十九日(木)

一、四五

一、〇〇

一、四三〇

二〇〇〇

大臣一般討論演説(国連総会)

大臣主催午餐

国連内記者会見

ロイド英外相招待

九月二十日(金)

一、三〇

一五〇〇

一七三〇

ロックフェラー氏主催非公式タリータウン一泊晩餐(場所タリータウン)

ジャパン・ソサエティ、日本人商業会議所、FEAC共同主催午餐会(場所 ウォードルフ・アストリア)

邦人記者会見

大臣主催レセプション(国連において)

各国代表招待

九月二十一日(土)

一一三〇

シャーマン・アダマス氏主催
非公式昼食
ウオードルフ・アストリア・ホテル

九月二十二日(日)

一三三〇 ニューヨーク 発

AAL四一九

一五一五 ワシントン 着

メイフラワー・ホテル

九月二十三日(月)

一二三〇

休 養

一四一〇 一七四〇

朝海大使主催午餐会(場所公邸)

一七三〇 一八〇〇

ダレス國務長官との会談(國務省)

一八三〇 二〇〇〇

邦人新聞記者会見

朝海大使主催レセプション(場所公邸)

九月二十四日(火)

九四〇 一〇二〇

ベンソン農務長官との会談

一一〇〇

マーフィ國務長官代理主催午餐会

一四三五 一五三五

ウィークス商務長官との会談

一六〇五 一六二〇

ウィルソン国防長官との会談

一八三〇

内外新聞記者会見
(大使館において)

二〇〇〇

朝海大使主催晩餐会
(公邸)

九月二十五日 (水)

一二三〇

ジャパン・アメリカ・ソサ
エテイ主催午餐会
(場所ウイテード・ホテル)

一六五〇

ワシントン 発

BA 1858

一八一〇

ニューヨーク 着

九月二十六日 (木)

一七〇〇

ニューヨーク 発

BA 510

九月二十七日 (金)

一〇三〇

ロンドン 着

ダレス長官夫妻出席
ブラック・タイ

ドレーク・ホテル

二 概況

(一) 藤山大臣一行は、第十二回国際連合総会出席及びその後のワシントン及びロンドン訪問のため、日航機により九月十四日午後九時三十分官民多数の見送りをうけ、羽田を出発した。

一行は十四日午後九時（現地時間）ホノルルに到着、服部総領事、ターナー・ハワイ準州知事代理、在留日系人代表らの出迎えをうけ、空港にてステートメント発表の後、服部総領事公邸にて休憩の後、二十四時サンフランシスコ向け出発した。

藤山大臣は、十五日午前十一時四十分予定どおりサンフランシスコ着、朝海駐米大使、西山総領事はじめ在留日本商社代表その他日系人多数の出迎えをうけた。空港においてステートメントを発表した後、宿舎マーク・ホプキンス・ホテルに入った。大臣はたまたま同日午後金門公園においてサンフランシスコ・エギザミナー紙の主催にて開催中であつた「アイ・アム・アン・アメリカン」デー（米国民の日）に出席し、日米親善のメッセージを送つた。夕刻には西山総領事公邸における晩餐会に臨み、終つて前記サンフランシスコ・エギザミナー紙及びジェット

ロ共催の金門湾における花火大会に出席し、日米官民との交歓を行つた。翌十六日午前九時一行は予定どおりサンフランシスコを出発し、ニューヨークに向つた。

(二) 藤山大臣一行は十六日午後八時半ニューヨーク・インターナショナル空港に到着、空港には松平国連大使、萩原駐加大使、国連儀典係官らの出迎えをうけ、空港ロビーにてステートメントを発表した後、ホテル・ドレイクに入つた。大臣は同日夜ホテルにて邦人記者団と会見し、国連総会に臨む態度に關し所信を説明した。

大臣は十七、十八及び十九日国連総会に出席、特に十九日午前一般討論演説を行つた。十九日夜はニューヨーク日本協会の長ロックフェラー氏の招待によりタリータウンの向氏別邸に赴き、晚餐をともし、同夜同邸に一泊した。

二十日はウォドルフ・アストリア・ホテルにおいて開催されたニューヨーク・ジャパン・ソサエティ、日本人商業会議所及び極東貿易に關心を有する米人実業家の集りであるフアー・イースト・アメリカ・カウンスル・オブ・コマース・アンド・イ

ンダストリー共催の午餐会に臨み演説を行い、日本の経済問題、日米通商上の諸問題に関するわが方の態度を表明した。

同日午後三時臨時に邦人記者団との会見を行い、主としてわが方の軍縮問題に関する態度について記者団の質疑に応答した。翌二十一日大臣は、折からニューヨークにきていた大統領特別補佐官シャーマン・アダムス氏の主催する非公式午餐会に臨み、席上ロツジ米国国連代表、朝海駐米大使らと交えて一般的な意見交換を行った。

大臣一行は二十二日午後一時半ニューヨーク発、ワシントンに向つた。

(三) 二十二日午後三時十五分一行はワシントン空港に到着、空港では米側よりロバートソン国務次官補、ブキャナン儀典局長、オキー東北アジア局長代理らの出迎えをうけ、短時間非公式に新聞記者会見を行った後、宿舎メイフラワー・ホテルに入つた。

翌二十三日午後三時より約二時間半にわたり国務省において、ダレス国務長官と会談を行った。この会談においては去る六月

岸総理とアイゼンハワー大統領及びダレス國務長官との会談によつてえられた結果のその後の発展につき検討した。

右会談を終つて新聞発表を行つた。

翌二十四日はベンソン農務、ウィークス商務、ウイルソン国防各長官と相次いで会見した。ベンソン農務長官とは主として日米間の農産物貿易問題、特に米国の余剰農産物の買入れ問題につき懇談し、ウィークス商務長官とは日米通商問題を討議し、特にわが方より米国の日本品輸入制限問題に関し米側の善処方を要望した。最後にウイルソン国防長官（近く退任する）とは短時間、日米共同安全保障問題、特に最近設置された日米安全保障委員会につき一般的意見の交換を行つた。

同日午後六時藤山大臣は、大使館において内外記者団と会見した。夜勤海大使主催の晩餐会が行われたが、この晩餐会にはダレス國務長官夫妻ら米國政府要人が出席した。

翌二十五日ウィラード・ホテルにて開催されたワシントンのジャパン・アメリカ・ソサエティ主催の午餐会に臨み、演説を行つた。

なお、右をもつてワシントンにおける有意義な会談を終了したので、予定を一日繰上げ同日午後四時五十分ワシントン発、ニューヨークに向い、ニューヨークにおいて国連関係の最後の打合せを行つた。

三 国際連合関係

(一) 軍縮交渉継続並びに核実験停止に関する提案

日本代表団は、藤山首席代表の裁断により、九月二十三日（ニューヨーク時間）「軍縮交渉継続並びに核実験停止」に関する決議案を国連事務局に提出したが、本提案の骨子は、全般的な軍縮問題解決のための交渉をさらに継続することを関係国に要請するとともに、核実験は問題の性質からも、停止することが望ましいので、とりあえず第十三総会（来年九月開会予定）で軍縮問題の審議が終了するまで、暫定的に停止することを要請する趣旨のものである。この提案は藤山首席代表の本邦出発前から、かねて準備していたものと実質的には変りなく、ただ国連総会本会議の一般討論開始後の状況に依じ、会議戦術上の見地からその提出が幾分早くなつたものである。しかしソ連は核実験を他の軍縮問題から切離して、二年ないし三年停止する趣旨の提案を行い、インドも核実験を無期限に停止する趣旨の提案を行っており、一方英米など西欧側は、核実験を第一段階の一般的措置の一部として実施するとの趣旨の提案を行うことが

予想され、この日本提案の国連総会通過には幾多の困難が見込まれるので、今後日本代表团としては、本提案採択のためあらゆる努力を行う必要が認められる。

(二) 藤山大臣の一般討論演説に関する反響

(イ) 藤山大臣の演説は、総会本会論中一般討論の第一日たる九月十九日ブラジル、米国及びガーナに次ぎ四番目に行われた。

(ロ) 軍縮問題

米国代表团は、本問題についての発言方法が非常に熟慮されたものであり、その配慮を多とするとし、ユーゴー代表团は日本の立場は思つたよりも西欧側の立場に近く、ユーゴーとしては今少し西欧より離れたものを期待していたが、いずれにせよ核実験停止の具体案をみた上でなければ、日本の真の立場も解らないといふべきところであらうとし、ソ連のグロムイコ外相は、核実験停止の問題を他の軍縮問題と明確に切り離すならば支持しうるとしている。

(イ) その他の問題

インド、ユーゴー代表团及び事務局係官は、経済問題及び

人口、移民問題に関する部分の発言は、全く日本としての独自の意見であつて、総会の一般討論として大いに参考となるものであつたとしている。

(二) 全般的な内容をいし態度

国連記者クラブでは、大臣演説内容及び態度は全く誠実なもので、好感がもてたとし、また日本語による演説は演出効果の点でも相当のものがあつたとし、邦人記者は、藤山大臣の音声、態度ともに堂々としており、安保理選挙のためにプラスになつたとしている。

また国連詰米人記者は、藤山大臣の演説は各種問題を具体的に提起したもので、今後の国連における討議題目を提供したものと評価しとしている。

四 ワシントンにおける公式会談

(一) 公式会談日程

- (イ) 九月二十三日午後 ダレス國務長官との会談
- (ロ) 九月二十四日午前 ベンソン農務長官との会談
- (ハ) 九月二十四日午後 ウィークス商務長官との会談
- (ニ) " ウイルソン国防長官との会談

(二) 公式会談概要

九月二十二日午後三時十五分藤山大臣は、ニューヨークよりワシントンに到着、翌二十三日午後ダレス國務長官と会談し、さらに二十四日午前ベンソン農務長官と、午後ウィークス商務ウイソン国防両長官と会談した。

(イ) ダレス國務長官との会談

ダレス國務長官は、大臣の国連総会出席の機会にワシントンを往訪し、兩國に共通の利益と関心のある事項について、一般的に懇談することにあつた。会談は二十三日午後三時より二時間半にわたり行われた。

会談においては、大臣及び國務長官は、六月の岸総理訪米

以後の内外諸情勢につき意見を交換し、総理とアイゼンハワート大統領との間に了解された諸事項の具体化の進捗状況を検討し、特に大臣及び国務長官は去る八月設けられた日米安保委員会に満足の意を表明した。

さらに大臣及び長官は、一般的軍縮問題、核実験停止問題につき意見を交換し、さらに大臣は日米通商問題につき、特に日本側の著るしい入超に言及しつつ、日米貿易の重要性を強調したるに対し、長官は、日本の貿易問題について理解を表明するとともに、日本の経済自立が極東の安定にとつて重要な要素である旨指摘した。

会談を終つて新聞発表を行つた。(附録 仮訳参照)

なお、本会談には米側より、ダレス国務長官ほか、デイロン国務次官代理(経済問題担当)、ロバートソン国務次官補(極東担当)ら、わが方より藤山大臣のほか、朝海大使、近藤情報文化局長、島内参事官らが出席した。

(ロ) ベンソン農務長官との会談

会談は二十四日午前九時四十分から約四十分にあつて行わ

れた。

会談においては、主としてわが方より日米間の農産物貿易、特に余 剩農産物の受入れに関する諸問題に関する要望を申入れた。さらに米国の輸入制限運動に関するわが方の関心と危ぐとを表明し、また短期農業移民計画の有意義なるゆえんを説明し、これらの問題に関し農務長官においても尽力するよう要請した。

本会談には、わが方より藤山大臣のほか、朝海大使、木村参事官ほか、先方は農務長官のほか、パールベルゲ農務次官補、ガーネット外国農業局長ほか一名が出席した。

(ハ) ウィークス商務長官

ウィークス商務長官との会談は二十四日午後二時半より一時間、わたつて日米貿易の各般の問題に関し一般的意見の交換を行つた。会談中藤山大臣より、日本の貿易にとつて米国市場の占める重要な地位について説明を加え、ともに、日米通商が、わが国にとつて経済的のみならず、政治的にも極めて大なる意義を有するとの観点より最近における米国の日本品輸入

制限問題に対する善処方を要望した。これに対しウィークス長官は、日本の貿易問題に対する理解を表明し、種々の具体的条件については今後とも在米大使館と密接に連絡して、解決促進に努めて行きたき意向を示した。

本会談にはわが方より大臣のほか、朝海大使ら、米側は長官のほか、カーンズ商務次官補らが出席した。

(二) ウイルソン国防長官との会談

ウイルソン国防長官との会談は、二十四日午後四時より約十五分間行われた。本会見は主として儀礼的訪問の趣旨をもつて行われたが、大臣より日米安全保障委員会につき説明を加え、その他一般的意見の交換を行った。

なお、ウイルソン国防長官は近く退官の予定であり、すでに後任が任命されている。

付属 新聞発表（仮訳）

藤山愛一郎外務大臣とジョン・フォスター・ダレス國務長官は本日午後、二時間半にわたり日米兩國にとつて相互の関心のある諸問題を討議するため会見した。

藤山外務大臣は朝海浩一郎駐米大使、近藤晋一外務省情報文化局長、島内蔵郎在米日本大使館参事官を同道した。

ダレス國務長官に陪席したのはシー・ダグラス・デイロン國務次官代理、ウォルター・エス・ロバートソン極東問題担当國務次官補であつた。

日本国外務大臣と米國國務長官は、一九五七年六月、日本國首相と米國大統領との間において到達された了解事項を、実施する上に見られた進展を再検討した。

藤山大臣は安全保障に關する日米委員会の設置に對し、また同委員会が既に兩國にとつて共に有益な協力と理解とを促進する上において發揮した有効性に對して満足の意を表明した。

大臣は米國が首相に對して与えられた確約に従い、在日米國軍隊の削減を実施した迅速さに關し好意的に意見を述べた。

外務大臣と國務長官とは特に、両者がすでに国連において発言した
軍縮の一般問題および核実験の打切りについて討議した。

外務大臣は日米貿易の相互的重要性に対し注意を喚起し、また特
に日本にとって極度に不利な対米貿易のバランスに言及した。

國務長官は外国貿易に關する日本の関心に対する理解を表明した。
長官は米國としては日本の経済的自立性を極東における安定のため
の基本的要素の一であると考えていることを指摘した。

藤山大臣は九月二十四日、エズラ・タフト・ベンソン典務長官、
シンクレア・ベイクス商務長官、チャールズ・イー・ウイルソン
国防長官を訪問する。

昭和三十三年十月

藤山外務大臣国際聯合總會出席及びアメリカ
合衆国訪問に関する報告（その二）

ステートメント及び演説集

外務省

目次

- 一、九月十四日 羽田出発に際しての挨拶
- 二、九月十四日 ホノルル空港到着に際してのステートメント
- 三、九月十五日 サンフランシスコ空港到着に際してのステートメント
- 四、九月十六日 ニューヨーク空港到着に際してのステートメント
- 五、九月十九日 国連本部よりの日本向け放送
- 六、九月十九日 国連才十二総会本会議における一般討論演説
- 七、九月二十日 ニューヨークジャパン・ソサエティ、日本人商業会議所及びフアー・イースト・アメリカ・カウンシル共催午餐会における演説
- 八、九月二十五日 ワシントン日米協会主催午餐会における演説

国連総会出席のため藤山外務大臣羽田出発に際しての挨拶

昭和三十三年九月十四日

私はこれから才十二回国連総会に出席のため出発致します。

こんどの総会は、軍縮問題の討議をはじめわが国が立候補致しました安全保障理事会非常任理事国の選挙など世界平和を公願とし国連強化を外交の基調とするわが国にとり極めて大きな意義をもつものでありまして、われわれ代表団の使命にはまことに重大なるものがあるといわねばなりません。もとより私と致しましては、総会出席の暁には、微力ながらわが国の立場と見解を卒直かつ十分に被瀝して、この重大な使命の実現に最善の努力を致す所存であります。

また国連総会出席後は米政府当局者および財界との間に充分な意見の交換を行い、その後、英国政府の招請により同国を訪問するつもりであります。

つきましては、この使命達成に対し、国民の皆様のご強力な御支援を賜わりますようお願い致します。

ホノルル空港到着に際しての

藤山外務大臣のステートメント（仮訳）

昭和三十三年九月十四日

私は国際連合才十二総会に出席のためニューヨークに行く途中です。ホノルルに滞在しその佳景を愛で、また、当地にいる多数の日本の友人に会う時間がないことは遺憾にたえません。しかし近い機会に再びハワイに参りまして日米関係の緊密化に大きな役割を果している皆様と再会することを願っています。

この機会を利用して、日本国民、特に最近の九州水害被災者を代表しまして、ハワイの皆様が水害に際し、直ちに多量の援助を送つた御親切に対し、心からお礼を申し上げます。皆様は暖かい御歓迎を感謝します。

サンフランシスコ空港到着に際しての

藤山外務大臣のステートメント（仮訳）

昭和三十三年九月十五日

私は国際連合才十二総会に出席のためニューヨークに行く途中ですが、米国の太平洋に面する玄関にあたるこの美しいサンフランシスコに滞在することができましたことは喜びにた

えません。

日本は昨年十二月、国連に加盟しましたが、国連で一そう大きな役割を果し、世界の平和と民主主義の確立に一段と寄与するため、このほど国連安全保障理事会非常任理事国として立候補しました。

このように私は日本国民の願望を実現する重大使命を帯びて旅をしているのですが、それだけに日本を国際社会に復帰せしめた平和条約が丁度六年前に締結されたこのサンフランシスコの地をふみまして感慨無量であります。皆様の暖い御歓迎を感謝します。

ニューヨーク空港到着に際しての

藤山外務大臣のステートメント

昭和三十二年九月十六日

ニューヨークに只今到着致し喜びに堪えません。私は、一九二〇年代の初頭、始めてこの大都會を訪問しましたが、その後ニューヨークは文化および商業上の国際的中心地として驚嘆すべき発展を遂げております。特に現在は、ニューヨーク市は国際連合才十二総会のため集まつてこられる世界各国の政治家、外交官に対しホストとしての役割を果しておられ、世界の注目を集めております。

私は、日本の外務大臣として、国連総会に出席致しますが、この総会に際して日本が、国際連合の多方面の活動に対し、積極的かつ建設的に貢献すると云うことを再確認するた
めに参つたものであります。

日本は国連の機構を通して、世界の自由と正義を確保すると云う熱烈な要望を各国と分
つものであります。わが国民の熱望に応え、また日本の外交政策の目的である国際社会の
平和、進歩および繁栄を一そう促進することが私の切望するところであります。

私は、また、日米両国間の諸問題について意見交換のため、ワシントンにおいてダレス
国務長官や政府首脳部と会談することを期待しております。この意見の交換により私は日
米両国間に既に存在している緊密な協力関係を一そう強化することを熱望している次第で
あります。

藤山外務大臣の国連本部より日本向け放送

昭和三十三年九月十九日

日本の皆様。私は、只今、ニューヨークの国際連合の本部からお話し申し上げております。
私が現在出席しておりますオ十二回国際連合総会は、昨年十二月日本の正式加盟が認め
られて以来、わが国が参加するオ二回目の総会であります。昨年の総会が、日本の正式加
盟を実現した総会として歴史的な意義をもつものであるならば、この度の総会は、皆様既

に御承知の通り、わが国が、国際連合の最も重要な機関である安全保障理事会の非常任理事国として立候補し、その実現を期しておる点におきまして、これ又わが国にとり重要な意味をもつ総会であります。国際連合の諸活動におきまして、わが国がより重要な貢献をなし得るような地位を獲得することの念願が、日本国民各位の絶大な御支援により達成されることを希望し、わが代表団は、その全力を尽す覚悟であります。

今次総会におきましては平和と安全に関する諸問題を始め国際経済、社会にかんする諸問題等幾多の重要な議題が提出されております。わが代表団は、これらの問題の討議に積極的に参加し、その公正な解決のために建設的な寄与をしたいと念願しております。殊に軍縮の問題につきましては平和外交を推進せんとするわが国としてはこれが実現に寄与したいと思います。軍縮の問題中でも特に核実験の禁止問題は、原爆の洗礼を受けたわが日本国民の悲願でありますので、この総会を通じて本問題の急速な解決を強く世界に訴えたいと存じております。

加盟各国は夫々強力な代表団をこの総会に送っております。現に只今首席代表として多くの首相や外務大臣が総会に出席しておることからも、おわかりになると存じます。私共は其の間に伍して私共の最善の努力を傾倒する所存であります。

外交は内政であると屢々云われております。その意味は、外交と内政とは一体でなくてはならないということ、及び対外的な政策なり発言はその背後に一致した国民的支持がな

くてはならないということでもあります。国際連合の如き国際場裡に参りまして、私は改めてこのことを痛感するものであります。外に対して自由と平和を唱くとき、それは国内における民主主義の確立と社会平和と安定の確保の事実によつて裏付けられていなくてはなりません。それなくしては単なる口頭禪に終るものにすぎません。幸いにして、わが国の民主主義と世界平和に対する信念と行動とは国際連合の加盟各国の既に認めるところとなり、国際社会におけるわが国の言動は益々注目されることとなつております。日本の外務大臣として又今次総会のわが国の代表団の首席として、私は、その責務の重要なを痛感するものであります。私はこの機会に、日本国民の皆様の方強い御支援を御願ひする次才であります。終りにのぞみまして日本の皆様の御健康をお祈りします。

国連才十二総会本会議における藤山外務大臣

(首席代表)の一般討論演説

昭和三十一年九月十九日

議長閣下、代表各位

先ず私は、十二総会議長に選挙されたニュージーランド代表サー・レスリー・マンローに対し、わが代表団よりの御喜びを申し上げたいと思ひます。われわれ日本にとつて太平洋の隣国であるニュージーランドの代表が名誉あるこの地位に選ばれたことに対し、特に

祝辞を述べると共に、議長がその卓越せる識見と国連における輝かしい経歴により、その困難な重責を必ず立派に果されることを確信するものであります。同時に、われわれは、今会期の総会議長選挙に際し、マリク・レバノン外務大臣が示された雅量に対して深甚なる敬意を表するものであります。

議長閣下

国連憲章の原則と精神の尊重は、わが国是であり、日本国民は、国連の基礎が今後益々鞏固となつて、名実共に真の世界平和の維持機構に成長発展することを願望して止まないものであります。

わが国は右の基本方針に則り、加盟国の一員として、又アジア諸国の一員として、国連の各機関とその事業に積極的に参画することにより、益々国連協力の実を挙げ、世界平和の維持促進に出来る限り貢献せんとするものであります。

議長閣下

私は、才十二総会劈頭にあたり、国連の当面する諸問題に関し、わが代表団の所見を述べたいと思います。

われわれは緊急総会に引続く才十一総会において中近東における戦闘行為の停止に成功し、今やスエズ運河が自由な航行に再び開放されたことは、国際連合の權威と威信を著しく高めたものと考えるのであります。国際連合の努力により恢復されたこの平和は、今

後も国際連合により恒久的に維持されるよう努力が払われねばなりません。

議長閣下

わが代表団は、中近東における事態収拾のため事務総長が払われた多大の努力に対し、この機会に賛辞を呈すると共に、緊急国連軍派遣を提案されたカナダ代表団及び右派遣に貢献せられた国々の代表団に対し満腔の敬意を表するものであります。

議長閣下

わが代表団は、自由と正義が民主的諸原則に基づいて確立されない限り、国際社会における平和は確保されないと確信しており、先ずこの点に関連して、私はあの最も不幸な事件、すなわちハンガリー問題を想起せざるを得ないものであります。総会は昨年の秋以来本年にかけ、ハンガリー問題の処理のため、多くの決議を採択し、憲章の精神により、公正妥当な措置を関係当事国に勧告しましたが、結局われわれは所期した結果を実現し得なかつたのであります。国連総会における勧告が強制力を有せず、その実施が関係当事国の意思如何に委ねられていることは、一応現在における総会の限界を示すものとして止むを得ないことではあります。われわれはこの不幸なる経験を忘却すべきではなく、総会強化のための良き教訓として真剣に検討すべき問題であると考えます。わが代表団は、この点に関する事務総長報告の趣旨に賛同するものであり、今後憲章の改正等の機会に、この問題が加盟国全体の平和維持への熱意と良識とにより改善されることを期待するものであります。

議長閣下

国際平和の問題は国際安全の問題と不可分のものであります。この意味において、すべての国家は、国際連合を通じて、実行可能にして且つ、有効な国際管理の下に軍備縮少、特に核兵器の廃止を実現するために協力すべきであると考えられるものであります。

日本政府及び国民は、前総会の後に再開された軍縮小委員会のなりゆきを多大の希望と重大なる関心をもつて見守つて来たのであります。この軍縮小委員会においては、戦後始めて関係国間に目立つた歩み寄りの機運が動き、世界各国は、今度こそは国際の安全を保障するに足る一般的又は部分的軍縮協定の成立により、核兵器戦争の悪夢より逃れるものと強い期待を寄せていたのであります。併し乍ら、かかる期待にも拘らず、小委員会における審議が本総会までに具体的な成果を得られなかつたことに対し、われわれは強い失望の念を禁じ得ないのであります。日本国民は核兵器戦争の齎らす惨過を他の如何なる国民よりも身近かに知つております。しかも、かかる不幸なる経験を将来如何なる国民にもまたと経験せしめないために、全人類に向つて純粋に人道的見地から、解決の方策を提唱する義務があると信ずるものであります。われわれは、国際連合が当面する重要な課題である軍縮問題が、人類の将来を破滅又は繁栄の岐路に立たしめる重大要素であることを深く認識する要があります。軍縮問題は、その意味において、決して小数の関係当事国のみの問題ではなく、全加盟国、否全人類の日夜念頭を去らぬ問題であります。本問題の解決策

は決して、關係大国間の戦術、戰略的考慮によつてのみ律せられるべきものではなく、ましてや軍縮交渉を一国の政治的宣伝に利用するが如き試みは断乎として排撃されぬべきではありません。われわれは、本件解決の成否が真に人類の現在及び将来に亘る運命を握るものであることを深く心に銘じ、關係大国が真に謙虚な気持をもつて、あらゆる政治的困難を克服しつつ、和解と相互信頼の上に速かにその解決策を見出されんことを特に茲に訴えるものであります。

更に、本問題の包蔵する問題の重要性及び複雑性に鑑み、その解決方式としては、軍縮の各分野におけるバランスを考慮した包括的協定が望ましいことは申すまでもなく、西側提案が右の点を重視しつつ核実験停止を包^含した点は、わが代表団と致しましては満足して歓迎するところであります。日本国民及び政府は、その体験とそれから演繹する人道的見地から、核爆発の実験停止の実施を最も重要視し、これは軍縮の他の分野に比し格段に緊切な必要性をもつものと確信しております。日本政府と致しましては、実験の停止が、管理・査察制度の如き合意せられたる必要な条件の下に關係当事国の善意と信義の下に実施せられた場合には、必ずや軍縮全般の推進に好影響を与えることを信じて疑わないものであります。従つて、わが代表団としては、本問題に關し、今次総会が何等かの解決策に到達し得るようあらゆる努力を致したいと思ひます。

私は、軍縮の面においては核物質の管理に關し未だに解決に到達し得ないにも拘らず、

平和利用の面に於ては既に国連の下に国際原子力機関により核物質の管理制度が確立されたことを洵に力強く感ずる次才であります。国際原子力機関の事業の発展がまさに核兵器の生産禁止への努力を側面より援助することとなることを期待するものであります。

議長閣下

わが代表団は、他の代表団と共に、この総会に、新たな加盟国としてガナに次いでマラヤ連邦を迎えたことに対して心から歓迎の意を表明したいと思ひます。私はマラヤ連邦が光榮ある独立の下に進歩と繁榮の道を歩まれることを確信し、又更に国際連合の一員として世界の平和と民主的自由の確立のため、重要な役割を果すであろうことを信じて疑いません。今日アジア・アフリカ地域の諸民族が持つている共通の課題は、民族の独立と、その政治的独立を裏付けるための社会的、経済的進歩に対する欲求であります。自由と独立とより良き生活水準の達成のため、自らの手によつて自らの将来を形成して行こうとするこれ等諸民族の決意と努力に対し、日本国民は多大の敬意を払うものであり、又アジアの国民としての日本国民は、かかる希望と欲求に対して共感を覚えるものであります。かかる独立の達成は、民族自決の原則と精神に則り達成せられねばならぬことは申す迄もありませんが、わが代表団と致しましては、民族自決の原則を繞る紛争の処理に当りましては、当該地域住民の願望を尊重しつつその基本的人権及び自由の確保と福祉の増進を才一義としなければならぬと考えるものであります。住民の願望と相反する体制は永續性を欠き、

必らずや破綻を来し、ひいては平和を攪乱する要因となりましよう。この原則が尊重される限り、具体的な解決方式については、それぞれの歴史的背景及び事情に応じ個別的に検討されるべきものと考えます。同時に、独立達成の過程にある諸民族の側においても、偏狭と独断を排し、寛容と信頼の上に政治的、経済的、社会的進歩を達成する要あることを確信するものであります。

議長閣下

新独立国マラヤの国連加盟に際し、私は、分裂国家の問題を想起せざるを得ないのであります。戦後十二年を経た今日、なお国家分裂の事態が継続している韓国、ヴェトナム及びドイツに対してわれわれは深甚の同情を禁じ得ないものがあります。われわれは、これ等の国家が平和の中に自由な民主的方法により一日も速やかに統合の成果をあげると共に国連の加盟国として近くこの議場に参加することを祈る次第であります。

議長閣下

次に最近の世界経済の動向と低開発地域の問題について、わが代表団の所信を述べたいと思ひます。世界貿易全体としてみればここ数年来可成り大きな伸張が見られたとは云へ、先進工業国と低開発諸国とは、その伸張に相当大きな開きがあり、なかんずく食糧及び農産原料の輸出に大きく依存する低開発国においては、その先進工業国に対する輸出が停滞乃至減少の傾向にあることを見逃し得ないのであります。こうした傾向が今後も続くな

らば、先進国と後進国との経済発展のテンポの較差はますます大きくなり、ひいてはそれが世界の政治経済の不安定要因にならざるを得ないであります。右のような傾向と関連して更に注目しなければならぬのは、最近世界の大部分の国の対ドル収支が再び悪化してきたことであり、そして、それが東南アジア等の低開発地域において著しいことでもあります。この根本的な原因は戦後の世界貿易構造の変化に帰せられるでありましょうが、低開発国がこうした変化に適応するには相当の期間を要するものと見なければなりません。従つて、この間に不均衡のますます増大することを避けようとするならば、この際先進国が自ら積極的に調整に乗出すことが必要であります。その調整手段は、先進国が輸入上の諸制限を極力撤廃すると共に、低開発国に対する政府及び民間資本の流出を推進するより他ないと考えますが、わが代表団と致しましては、特に貿易収支が巨額の出超を続け、外貨の準備に充分な余裕のある国が、この点に関して認識を深められんことを切望してやまない次第であります。

更にわが代表団と致しましては、低開発地域の開発に必要な資本、技術の導入が、ややもすれば、種々の政治的理由により満足に進展していない事実を看過し得ません。世界平和の維持促進のためには、目前の政治的要因のために低開発地域の発展進歩を等閑に付してはならないのであります。その意味において、私は国連が数年来国連経済開発特別基金

わが代表団としては、関係国が十分にその議を尽し、発足の暁には真に有効な成果を挙げ得るよう予め万全の準備を完了し、その発足の喜びを見るよう期待するものであります。

議長閣下

世界の平和はアジアの平和なくしては期待できず、アジアの平和の確保はこの地域の経済的繁栄と社会的福祉の招来なくしては期待し難いと思ひます。わが国はこの意味においてアジア諸国のみならず、他の地域の友好諸国とも手を携えてアジアの繁栄と福祉を実現することに邁進する覚悟を有するものであります。

次に、通商の自由化すなわち人為的且つ偏狭な利己的立場による貿易上の制限の撤廃は、世界経済の繁栄と安定のための不可欠の条件であり、われわれは、この面における国連の事業に対し深い関心と熱意とを有するものであります。われわれは、貿易を通ずる各国間の協力が世界の国民生活を維持するための唯一の方法であることを全加盟国代表に強く訴えたいのであります。

議長閣下

最後に人口問題につき一言したいと思います。今日の世界には国内を開発し尽してなお人口の過剰に悩む国と、未開発の土地と資源を有しながら開発のための人的資源を必要とし、そのため移民の受入れを希望している国とがあります。私は、国際連合がこの二つの種類の国々の間に立つて調整の役割を果し得るものと考えます。これら人的資源を必要と

する地域のために、国際連合がその種々の機関を通じ、関係国の同意の下に過剰な労働力、技術及び資本を利用し得るよう斡旋に当ることを希望するものであります。更に将来は移住が世界各国間に一層自由となることを希望せざるを得ません。わが代表団がこれらの希望を表明するのは、世界の人口問題の解決は決して関係国のみの利害でなく世界全体の福祉を齎らすと確信するからであります。

議長閣下

以上、私は今次総会の最も重要な議題についてのわが代表団の基本的態度と希望について述べました。私は今次総会が貴議長の下に多大の成果を収めることを希望すると共に、わが代表団も右希望達成にあらゆる努力を捧げたいと考えるものであります。

(了)

ニューヨルクジャパン・ソサエティ、日本人商業会議所、フアー・イースト。
アメリカ・カウンシル共同主催午餐会における藤山外務大臣演説

昭和三十三年九月二十日

ロツクフェラー氏、ブラムステッド氏、南氏、日本協会、極東アメリカ協会及び日本人商業会議所の会員並びに会友の皆様。

本日私は日本の真の友人達であり、ことに日頃日米間の経済協力関係の増進に努力されつつある皆様にお話する機会を得ましたことを厚く御礼申し上げます。

私は最近外務大臣に就任致しますまではその半生を実業界に暮したのであります。本日は私はいわゆる外交辞令をもつてお話するよりも実業人としてビジネスライクに卒直に特に日米通商問題について私の所見を申し述べたいと思ひます。

皆様ご存じの如く日本は貿易を拡大することによつてのみ増加する人口を養ひ、かつこれに職を与えることができるのであります。貿易の拡大と申しましたが、容易に達成されるものではありません。昨年におきまして日本の輸出は好調を維持しましたが、他方、輸入が大巾に増大したため日本の国際収支は悪化し、保有外貨は急激に減少致しました。さてこのような輸入の増大は生産設備の近代化と合理化を積極的に推進したことによつても

たらされたものでありますが、この生産設備の近代化は世界市場におけるわが国産業の国際競争力を強化するものと期待されるものであります。然し、それにしても外貨準備の減少が本年初めのような勢いで続いたのでは、正常な経済の運営すら困難になると予想されたのであります。

日本政府としましては、今春以来日本銀行の公定割引歩合の引上げ、市中銀行貸出し規制の強化、財政投融資計画の繰り延べ乃至削減等一連の抑制措置を執つた次才であります。これら措置の目的は国内における過度の消費及び投資を抑制すると共に輸出を奨励することにあつたのであります。幸いにして、その実施後数カ月を経たずしてその効果は現われて来ており、例えば、本年四月中旬から八月中旬までの間に卸売り物価は七・六パーセントも低落し、一方貿易においても六月頃から輸入の減少が顕著となつており、輸出は比較的高いレベルを続けております。この新しい傾向により外国収支は遠からず均衡を見るものと期待されるようになったのであります。

さて、私はここで日米貿易関係の現状について言及したいと思います。日本貿易に占める米国のウエイトは非常に重く、日本は全輸入額の約三五パーセントをアメリカに仰ぎ、また全輸出額の約二〇パーセントをアメリカに出しております。輸出、輸入共にアメリカは日本の貿易の相手国としては才一位を占めていたのであります。日本もカナダに次いでアメリカの大きな輸出市場であります。

日本としては輸出が少数の市場に過度に集中することの危険に鑑み世界の各方面に新しい市場を開拓するよう絶えず努めております。然し最近のように米国及びドイツ等少数の国にのみドルが集中している現在の情勢の下において日本からの輸出は各方面にわたり種々の困難に直面しております。その一例としまして、欧州共同市場の形成などに見られる経済地域主義の強化が挙げられます。このような状況の下において日本の新市場開拓の努力にもかかわらず日本の輸出貿易における米国市場の重要性はますます高まりつつあるのであります。つまり米国市場における日本の輸出貿易の維持及び発展は日本経済にとり死活的問題なのであります。

申すまでもなく、日本政府と致しましては、対米輸出が一商品に集中したり、また余りに急激に増大したりしないようにあらゆる可能な努力を払っております。また同時に日本政府は余りに低廉且つ品質の悪い商品が輸出せられないよう最大の注意を払うとともに、民間業界が米国の国内産業に不当な悪影響を与えぬために秩序ある輸出体制を確立すべく最善の努力を尽して来ましたし今後その努力を継続する方針であります。

18 私ら世界経済において最も強力な地位にあり、そして戦後世界貿易の自由化を唱道して来た米国がもし関税その他の面で外国商品の輸入制限措置を強化することとなるならば、その影響は測るべからざるものがあるのを惧れるものであります。即ち国際収支の悪化に当面し、ドル不足に悩む他の国々は米国の例に倣い同様に輸入制限措置を採るに至るであ

りましよう。その場合貿易の自由化を目指し健全な道を歩んで来た戦後世界貿易はその方向を逆転することとなるでありましよう。それは世界貿易の縮小を齎すことにより、世界経済を破綻に導くことは必然であります。そしてその場合我々自由世界が蒙る打撃は単に経済的に止まらず政治的問題にも発展する危険性を包蔵するものであることを私は卒直に指摘したのであります。

日本商品の対米輸出制限問題に關連して私は次の事実について皆様の注意を喚起したいと存じます。即ち日本の対米輸出の関連産業には中小企業者が非常に多いのであります。つまり米側からみれば僅かの量の輸入制限であつても、これら中小企業にとつては致命的な打撃となるだけに、その影響は単に輸出金額の減少の問題のみに止まらず、多くの場合關係都市全体の死活に影響して来ることになるのであります。

私はここで我々が入手し得る情報が不充分であつたこと等のため我國の通商努力の米國における影響を理解し予想し得ないこともあつたことを申し上げねばなりません。このためわが國におきましては日米兩國の業界の間で充分な情報及び隔意なき意見の交換を行い、これを通じて日米間貿易の拡大を秩序的に行うに必要且つ妥當な措置を取り得るようになし、ようとの構想があります。日本政府といたしましては真剣にこの構想を險討中であり、

日米協力關係を促進するに當つていろいろの面があります。つまり政治的分野、文化的分野、更に経済的分野など広汎な分野があります。我々はあらゆる分野において障害を除

去し協力関係を更に増進して参らねばなりません。一つの分野における障害は他の分野における協力関係の強化に悪影響を及ぼし、また新たな障害を惹起する可能性があります。また更に両国間の協力関係の増進は常に政府間の問題でなく、基本的には国民間の問題であります。

日米両国民の凡ゆる活動分野において真の友情と誠意に基づく緊密な協力を樹立するため、日米協会、極東アメリカ協会及び日本商業会議所の演ずる役割は極めて重要なものがあります。日米両国民の友情と協力の増進のために果されつつある役割に対し、ここに敬意を表し私の話を終えたいと存じます。

ありがとうございます。

ワシントン日米協会主催午餐会における藤山外務大臣の演説

昭和三十二年九月二十五日

セイヤー会長ならびに日米協会の会員および会友の皆様。本日皆様の暖い御歓迎にあずかり、誠に光栄に存じます。本日この会合の場所選ばれたウイラード・ホテルは、一八六〇年日本から初めて正式に送られた外交使節が、ワシントンへ参りました際、滞在しましたホテルと聞きました。百年間に垂んとする日米友好関係の歴史におきまして、誠に意義あるこの場所において、日本の真の友人達である皆様にお話する機会を得ましたのは、私にとり、一層感銘の深いものがあるのであり、彼の百年前の我々の先人達が抱いていたような、清新さと活気と希望とを、改めて両国の関係に取り入れたいものであります。才十二回国際連合総会の開会に出席致しました機会に、私が当地へ参りました目的は、ダレス長官その他米国政府の指導者と直接に面識を得て、去る六月岸総理の訪米によつて、確立された日米間の基本的な了解を、ドーアアップする意味において日米両国間の共通の問題について意見を交換するためでありました。彼の岸総理大臣とアイゼンハウアー大統領とのワシントン会談は、歴史上意義深いものであり、且つ成功でありました。御承知の通りこの会談によりまして、日米協力を恒久的且つ一層強固ならしめるための基礎が置かれ

21 その方向が示されたのであります。

しかしながら日米友好関係を船に例えますれば、ワシントン会談により立派な龍骨が置かれたにしましても、この船が、国際情勢の荒海の中で、如何なる事態にもよく堪えるためには、船全体の構造が強くなければなりませんし、これを運転する乗組員も、最高の協力態勢を維持しなければなりませんのであります。

岸内閣の新しい外務大臣と致しまして、私は乗組員として自由と正義に基く平和を確保し、日本と最も関係の深いアジアのみならず、全世界における人々の福祉を増進するとの共通の目的のために、日米両国がますます協力関係を強化して行かねばならないとの決意におきまして、他の何人より劣るものではありません。

我々が到着せんとしている目標は同じであります。然しながら、この複雑且つ変転する国際関係におきまして、その時々々の天候の条件によりまして、船の舵をとる方向も一時的には異なる場合もあるかもしれませんが、然し究極における我々の目標は同一であり又我々のコースは、基本的に同じである事を確信しており、その確乎たる確信の下に我々は行動しているものであります。日米関係には常に検討を要する多くの問題が有りますが、時間の関係上その総てに亘つて申し上げるわけには参りません。然し、本来が実業界出身の人間と致しまして、私が特に日米間の通商関係に関心を抱いているのは当然であります。

日米両国は通商の面で格別強い結び付きにあり日本が米国との通商に依存することの大なる点は皆様よく御存じの通りであります。日本は大きな人口を養い経済的社会的安定を

保つためには常に海外市場との結び付きを安定し、且つ發展的な基礎において維持し強化する必要がある。昨年末から本年にかけて日本は輸入超過のため著しい手持外貨の減少を来した結果引締政策をとつてまいりました。これは日本の産業が急テンポで発展拡張し、資本財及び建設資材の大量輸入を必要とし、他面これと見合うだけの輸出の増大が無かつたために生じた事態でありまして、そこで輸入信用の引締めその他必要を措置を實施して、調整を計ることを余儀なくされたのであります。然し今やこの政策は成果を上げつつあり遠からず日本の国際収支のバランスをとることが出来るものと希望し得るに至つていと申せます。

しかしながら健全なる日本経済を持続し、わが国民の必要と福祉を賄つて行くためには、少くとも一年におよそ七割の割合で引続き経済規模を拡大せねばならないものであります。これがため日本は不足している多くの工業原材料及び施設を輸入しなければならず、その輸入資金に当てるために輸出を増大しなければなりません。日本の国家的存立また、アジアにおける自由の防波堤という日本の地位は正に日本がその国際収支の均衡を計りつつ、経済発展を如何にして賄つて行くかという点にかかつてるのであります。

このことはすべて世界市場の安定と繁栄の諸条件がどうなるか「持ちつ持たれつ」という原則に従う諸国の意思如何にかかつております。この点におきまして自由世界は米国の指導性を頼みとしております。日米間通商が、死活的な重要性をもつ日本としましては、特に通商問

題に関する米国の動向に対し深甚な関心を抱いており、それ故に日本国民はこの問題に対して敏感であります。つまり日本からの輸入を制限する米国の何等かの動きは、よしんばそれが米国にとりさして重大な意味を持たないものでありましても、それはただに日本の関係産業に対し悪影響を与えるばかりでなく、広く日本の輿論一般に対して面白くない影響を及ぼすのであります。そしてそれは日米関係の疎外を計ろうとしている者により悪用され、ことさらに煽り立てられるのであります。いわゆる冷戦は幾分か収まつてはおりませんが国際共産主義の政治経済攻勢は激しさを加えている際に、日米両国は自らの行動により相互の友好関係に、悪影響を及ぼすような原因を作ることとは出来ないうし、又それをしてはならないのであります。

私どもはその責任の一半が日本側にあることを認めております。それ故に日本政府及び関係実業界は品質の改善、価格の安定のために、出来るだけのことをやつており、日本品の秩序的な輸出处体制を作るための措置をとりつつあるのであります。

しかし通商と云うものは両面交通の如きものでありますから、日米両国の政府及び実業界が通商関係を両国の利益となるよう、増進し日米の協力関係を強化するため真摯にして不断の努力を払うよう衷心より希望して止みません。日米関係の将来は両国間の理解と友好のために献身されている皆様方の指導性にかかるところ極めて大きいと云うのが私の深い信念でありまして、その意味におきまして、本日この会合に出席出来ましたことは喜び

に堪えないところでもあります。

皆様方は日本人に対し、又その文化的資産等に対する広い無限の関心を表わしておられます。皆様方のようなお集りこそ日米間の真の理解と友好に寄与すること極めて大なる雰囲気と申しますか、また心の持ちようと申しますか、そう云うものを作り出してゆく場所であると思われるのであります。最後にこのワシントン日米協会並びにその会員各位に敬意を表し皆様方の御繁栄を切望致します。

御清聴を感謝します。

STATEMENTS AND ADDRESSES BY FOREIGN MINISTER FUJIYAMA
DURING HIS VISIT TO THE UNITED STATES,
SEPTEMBER, 1957

Contents

1. Statement on Departure from Haneda Airport, September 14, 1957.
 2. Statement on Arrival at Honolulu Airport, September 14, 1957.
 3. Statement on Arrival at San Francisco Airport, September 15, 1957.
 4. Address on the occasion of "I am an American" Day in San Francisco, September 15, 1957.
 5. Statement on Arrival at New York Airport, September 16, 1957.
 6. Address in the United Nations General Assembly, September 19, 1957.
 7. Address at Luncheon given by the Japan Society, the Far East-America Council and the Japanese Chamber of Commerce of New York, September 20, 1957.
 8. Address at luncheon given by the Japan-America Society of Washington, September 25, 1957.
- Appendix: United States-Japanese Discussions, September 23, 1957 (Press Release)

Statement of Foreign Minister Fujiyama
upon His Departure from Haneda Airport

September 14, 1957

I am setting out on a trip to the United Nations to attend the 12th Session of the General Assembly.

As the forthcoming session comprises, in its agenda, the discussion of disarmament problem and the election to non-permanent seats of the Security Council, for which Japan stands, it is of deep significance for Japan, which desires, as the basis of its foreign policy, to strengthen the role of the United Nations and to contribute more positively toward the establishment of world peace. I am fully aware of the very important mission entrusted with our delegation.

I am determined to do all in my power to state fully and frankly the position and views of our country before the Assembly in order to fulfill our mission.

After attending the General Assembly Session I also look forward to meeting and exchanging views with the government and business leaders of the United States and, thereafter, to visiting Great Britain upon the invitation of the British government.

In concluding, I earnestly solicit the whole-hearted support of the entire nation.

Statement of Foreign Minister Fujiyama,
on Arrival at Honolulu Airport

14 September, 1957

I am on the way to New York to attend the 12th Session of the General Assembly of the United Nations. I deeply regret that I have not the time to stay over to enjoy the scenic beauty of Honolulu and meet the many friends of Japan in this city. But I hope to have the pleasure of visiting Hawaii again at another time and of seeing more of you who are all playing an important role in promoting Japanese-American relations.

I avail myself of this opportunity, however, to express on behalf of the Japanese nation, especially of the sufferers of the recent flood disaster in Kyushu, our sincere gratitude to the people of Hawaii for their kindness in sending to us prompt and generous aid.

I thank you for your cordial welcome.

Statement of Foreign Minister Fujiyama,
on Arrival at San Francisco Airport

15 September, 1957

On my trip to New York to attend the 12th Session of the General Assembly of the United Nations, it is a great pleasure to stop over at this beautiful city of San Francisco, the Pacific gateway of the United States.

Japan, which formally joined the United Nations in December last year, stands for election to a non-permanent seat in the U.N. Security Council, for she desires to play a greater part in the United Nations and to contribute more effectively toward the establishment of world peace and international democracy.

Traveling, as I am, on the important mission to realize this national aspiration of our people, it is with deep emotion that I find myself in San Francisco where the peace treaty restoring Japan to the family of nations was signed six years ago this month.

I thank you all for your warm welcome.

Address of Foreign Minister Fujiyama
on the occasion of "I am an American"
Day in San Francisco

September 15, 1957

Mr. Chairman, Ladies and Gentlemen,

It is my good fortune to be here in this gracious city by the Golden Gate today and to be able to join with you in the celebration of "I am an American Day". I am very happy to be with you and I am very grateful to your sponsors who so kindly extended an invitation to me.

Ladies and Gentlemen, I am very much impressed by the significance of the celebrations which you are holding here today.

In this world which is becoming smaller and smaller everyday because of the never-ending development of communications and where nations are coming to depend more and more on each other for security and for the welfare of their people, it is a good thing that we should try to think of what we are, whether American, Japanese or any other nationality, and what it means, in relation to the world that we are American or Japanese or any other nationality.

If you are American, it is something that you should be proud of, not only for the wonderful heritage and bountiful privileges which you enjoy, but also for the expectations and trust which are placed in you by all nations. The world looks to you for inspiration and leadership in securing happiness and peace.

Turning to Japan, my country, it was in this very city just six years ago that the peace treaty was signed restoring it to the society of nations. It is also in this city of San Francisco that the United Nations Organization had its inception and I am now on my way to represent my country at that world organization. We Japanese are proud to be taking part again in the affairs of the world. We are mindful also of the grave responsibility which is ours, but, at the same time, it is our strong hope and expectation that we may work closely with the United States, so that we may together make a definite contribution to the advancement of the welfare and happiness of both our peoples as well as the peoples of the world.

Ladies

Ladies and Gentlemen, may I congratulate you on "I am an American Day" and hope that you will continue to celebrate it for many years to come.

Statement of Foreign Minister Fujiyama,
on Arrival at New York Airport

September 16, 1957

It is a great pleasure to be in New York. Since my first visit to this great city in the early twenties, New York has grown tremendously as an international center of culture and commerce. At this particular time, however, attention is focused on New York's role as host to statesmen and diplomats from throughout the world, gathering for the 12th Session of the United Nations General Assembly.

As Foreign Minister of Japan, I come to this Session, bringing my country's renewed assurances that it will contribute, positively and constructively, to the manifold activities of the United Nations.

Japan joins all other nations in its ardent desire to secure through this organization freedom and justice throughout the world. It is my hope to be able to further the aim of Japanese foreign policy which is to fulfill this national aspiration and to help bring peace, progress and prosperity to the world community.

I am also looking forward to meeting in Washington with Secretary of State Dulles and other Government leaders to exchange views on some of our mutual problems and interests. In this manner I hope to strengthen the already existing close co-operative relationship between our two countries.

Address of Foreign Minister Fujiyama
in the United Nations General Assembly.

September 19, 1957.

Mr. President and Delegates:

First of all, I wish to extend the felicitations of my delegation to His Excellency Sir Leslie Munro on his election as President of the 12th Session of the United Nations General Assembly.

To express our sincere congratulations to you, sir, the delegate of New Zealand, our neighbor in the Pacific Community, is to express our deep satisfaction at your election to this most eminent position, and to offer assurance that we from Japan are confident that with your distinguished record of service in the United Nations, and your well-known integrity and wisdom, you will surely fulfill the heavy responsibilities of this high office.

At the same time, we wish to express our high respects to Dr. Malik, the distinguished Foreign Minister of Lebanon, for the magnanimity shown by him at the time of the election of the President of the session.

Mr. President, it is the fundamental policy of my government to respect the principles and spirit of the Charter of the United Nations. The people of Japan wish most ardently that the foundations of this world organization will become ever more strong and firm, and that the United Nations will in name as well as in fact continue to develop into a truly formidable agency for the maintenance of world peace. In accordance with this fundamental policy and as a member of this organization as well as of the Asian Community of nations, my country desires to participate in all the activities of the various organs of the United Nations, and by virtue of our deeds to demonstrate our will to contribute the fullest measure of our efforts to work within this organization for securing and maintaining world peace.

Mr. President, on the occasion of the opening of the 12th Session of the General Assembly, I wish to present the views of my delegation on the various problems confronting the United Nations.

It

It is a source of gratification that the 11th General Assembly, following an emergency session, succeeded in bringing about a cessation of hostilities in the Middle East, and that pursuant to this historical action, the Suez Canal is again open to free navigation. We believe that this accomplishment has enhanced incalculably the authority and prestige of the United Nations. But lauding the action already taken, we add that this organization must not relax its exertions: it must make certain that the peace it has restored will be maintained.

Mr. President, my delegation wishes to take this opportunity to pay tribute to the Secretary-General for his untiring efforts when the situation in the Middle East was most critical. My delegation wishes also to express its appreciation to the delegation of Canada for proposing that a United Nations emergency force be dispatched to that troubled area, as well as to the delegations of all the countries which contributed contingents to this force.

Mr. President, my delegation believes that so long as freedom and justice are not firmly established on the basis of democratic principles, peace in the world community cannot be secured. In this connection, I cannot help but recall the unfortunate case of Hungary.

This Assembly, from the fall of last year, adopted many resolutions relating to the settlement of the Hungarian question and pursuant to the spirit of the United Nations Charter, it recommended fair and just measures to the parties concerned. But it failed to achieve the results to which we earnestly looked forward.

The fact that the recommendations of the General Assembly do not carry any compulsion and the fact that their implementation depends upon the will of the parties concerned indicate the present limits of the authority of this Assembly. Nevertheless, we should not forget this regrettable experience. We should consider it as a lesson in the need to strengthen this body and give this matter our most serious study. In this regard my delegation endorses the report of the Secretary-General. It is our sincere expectation that when the opportunity for revision of the Charter presents itself, all member states, in the interests of world peace, will demonstrate their good judgment and zeal for improvement of the present situation.

Mr.

Mr. President, the problem of world peace and the problem of world security, being essentially the same, are indivisible. On this incontrovertible premise, I feel that all states, acting through the United Nations, should cooperate fully to bring about -- under feasible and effective international controls -- the reduction of armaments, especially the abolition of nuclear weapons.

The people and government of Japan have watched with great hope and concern the progress of the Sub-Committee on Disarmament after resumption of its meetings following the last session of this Assembly. From these meetings there came strong indications that the Powers concerned, for the first time since the war, were at last coming closer together. The people of the world were hopeful that the consummation of a general or partial disarmament agreement, adequate to guarantee international security, would put an end to the unrelieved nightmare of nuclear war.

But to our profound disappointment the Sub-Committee failed to achieve any concrete results by the time of the opening of this present assembly. The people of Japan, more than any other people, know directly the horrors of nuclear war. They earnestly believe that it is their bounded duty to propose and to support measures for the solution of this great issue, purely from the standpoint of humanity, so that people everywhere will forever be rid of the unspeakable tragedy that nuclear warfare engenders.

It is incumbent upon all of us to recognize with the greatest clarity the all consuming truth that the whole future of mankind hinges upon the problem of disarmament -- the foremost challenge now confronting the United Nations. We are thrust into the moment of decision: shall we be led to destruction or shall we enjoy the abundant life? The issue is far too gigantic to be the private domain of the few nations alone now party to the discussions. It is equally the problem of all member states, and indeed the unending concern of all mankind. Measures to solve this problem cannot and should not be dictated by the tactical and strategic considerations of the great Powers concerned. We must resolutely denounce the attempts of any single nation to utilize the disarmament negotiations as instruments of political propaganda. Our hearts and our minds must be deeply sensitive to the certainty that the destiny of mankind truly depends upon whether we succeed or fail in our efforts for a solution to this problem. I appeal to

the

the great Powers concerned to endeavor with a true sense of humility to overcome all political obstructions and seek an early solution of this problem in a spirit of conciliation and mutual trust.

In view of the importance and complexity of the issues involved, it is desirable, as a formula for settlement, to seek a comprehensive agreement which gives consideration to a balance of the various aspects of disarmament. My delegation is satisfied and welcomes the fact that the western proposal, while giving importance to this point, embraces the suspension of nuclear tests. The people and government of Japan, from their own experience and from humanitarian motivations, attach great importance to the suspension of nuclear explosion tests. We believe that it commands a far greater urgency than the other aspects of disarmament. My government believes that the suspension of tests under necessary conditions such as control and inspection and with good will and trust among the Powers concerned will surely have a favorable effect toward impelling action on the whole problem of disarmament. Hence, my delegation wishes to make every effort toward the attainment by this session of the General Assembly of some kind of settlement of this question.

Although in the area of disarmament no agreement has yet been reached on the control of nuclear materials for weapons purposes, it is most heartening that in the area of peaceful uses of such materials, a system of control has been established at the hands of the United Nations. Let us earnestly hope that the development of the International Atomic Energy Agency will substantially buttress our efforts to bring about the prohibition of the manufacture of nuclear weapons.

Mr. President, my delegation joins the other delegations in extending our warm welcome to a new independent state and a new member of our organization, the federation of Malaya, following the admission of Ghana. I am sure that this new state, under their glorious independence, will walk the road of progress and prosperity and that as a member of the United Nations it will play an important role in the establishment of world peace and freedom.

The problem common to all peoples of the Asian and African areas today is national independence and their yearning for social and economic progress so as to ensure their political independence.

The

The people of Japan pay their high respects to the peoples of these areas for their determination to blaze their own future through their own efforts in order to attain true freedom and independence, as well as a better standard of living. As a member of the Asian Community, the people of Japan feel a deep sense of sympathy with the hopes and aspirations of these peoples. I need not say that such independence should be achieved on the basis of the principle of self-determination and the spirit of the Charter of the United Nations. It is the belief of my delegation that in the settlement of disputes involving the principle of self-determination, the aspirations of the people should be fully respected and primary consideration given to ensuring them their basic human rights and freedom, and to promoting their welfare. Any system that denies their aspirations will never last: it will inevitably collapse. Indeed it may well become a factor that disturbs the peace. So long as this principle is respected, I believe that specific formulas for settlement should be studied in accordance with the historical background and the conditions of each people separately. At the same time, we believe that it is also incumbent upon peoples who are in the process of attaining independence to desist from narrow-mindedness and arbitrary actions and to work for their political, economic and social progress in a spirit of tolerance and trust.

On the occasion of the admission of the new independent state of Malaya, I cannot help but think of the problem of the divided states, persisting even now, 12 years after the war. I am unable to conceal my profound sympathy toward the republic of Korea, Vietnam, and the Federal Republic of Germany. I earnestly pray that these countries will succeed in achieving early reunification by free, democratic and peaceful means and that they will join our ranks as members of this organization.

Mr. President, I wish next to present the views of my delegation with respect to recent world economic trends and the problem of the so-called under-developed areas.

Viewed as whole, there has been a great increase in world trade in recent years. Yet for all this expansion we cannot fail to note certain unhealthy trends. There is a large gap between the trade increase of the advanced industrial countries

and

and that of the under-developed countries. Exports of food and agricultural raw materials to the advanced industrial countries upon which the under-developed countries so heavily depend for their sustenance are becoming stagnant or decreasing. Should this trend continue, the disparity in the tempo of economic development between them will become increasingly great and may well become a cause of political and economic instability in the world.

Related to this trend is another situation which demands our attention. I refer to the recent worsening of the dollar balance of most of the countries of the world, a situation which is particularly acute among the under-developed countries of Southeast Asia. The basic cause therefor may be laid to the change in trade patterns since the war, but it must be recognized that the under-developed countries would require a considerable length of time to adapt themselves to this change. Hence, if any further increase in the disequilibrium is to be avoided, it is necessary for the advanced countries themselves to take the initiative and make positive efforts to adjust the situation. As to the means of adjustment, I venture to say that there is no other way than for the advanced countries to do their utmost to remove barriers to imports and, at the same time, to promote the flow of government and private capital to the under-developed countries. My delegation earnestly hopes that an appreciation of this unhealthy state of affairs is further deepened, especially in countries whose trade balance continues to show a large excess of exports over imports and which enjoy large reserves of foreign exchange.

Further, my delegation cannot overlook the fact that extension of capital and technology so necessary for the development of under-developed areas is not proceeding satisfactorily because, more likely than not, of various political reasons. In order to maintain and promote world peace, the development and progress of the under-developed areas cannot be neglected because of immediate political factors. For this reason, I have a deep respect for the United Nations for the serious and energetic efforts it has made to establish the Special United Nations Fund for Economic Development (SUNFED). My delegation looks with hope and expectation to the time -- which we trust will be soon -- when the countries concerned will have completed their deliberations of this program and with full preparations to ensure effective results will bring it into practical effect.

Mr.

Mr. President, there cannot be peace in the world without peace in Asia. And peace in Asia cannot be secured without bringing economic prosperity and social well-being to this area. My country is resolved to do its utmost toward the realization of Asian economic prosperity and social well-being in cooperation, not only with the countries of Asia, but also with the friendly countries of other areas.

Now, a word regarding the liberalization of trade. The elimination of artificial barrier and other restrictions to trade imposed for selfish motives is an essential condition to world economic prosperity and stability. My delegation has a deep interest in the work of the United Nations in this important area of activity. We emphasize to our fellow delegates that cooperation among nations through the medium of trade is the only way to maintain the livelihood of peoples all over the world.

Finally, Mr. President, a few words on the population problem.

There are countries in the world today which have reached the limit of internal development and are suffering from over-population and countries which, though having undeveloped lands and resources, lack human resources and desire therefore to receive immigrants. It is my belief that the United Nations can play the role of an intermediary between these two types of countries. I earnestly hope that the United Nations, acting through its several agencies in behalf of areas which require manpower resources and with the concurrence of the countries concerned, would extend its good offices to effect the utilization of excess manpower, technology and capital for the benefit of all concerned. I also look to the day when emigration among nations will become ever more free. My delegation expresses this hope because we believe the solution of the problem of population is not only in the interest of the countries directly concerned: it will also contribute to the general welfare of the entire world.

Mr. President, I have expressed the basic position and hopes of my delegation on what we consider to be the major problems of the present Assembly.

It is my hope that this session under your presidency, sir, will achieve a full measure of success. My delegation gives you its assurance that it will make every effort to fulfill that hope.

Address of Foreign Minister Fujiyama
at Luncheon given by the Japan Society,
the Far East-America Council and the Japanese Chamber
of Commerce of New York.

September 20, 1957.

Mr. Rockefeller, Mr. Bramstedt, Mr. Minami, members and friends of the Japan Society, the Far East-America Council and the Japanese Chamber of Commerce of New York:

I am grateful for this opportunity to speak to you. I know you are true friends of Japan and are endeavoring to promote Japanese-American friendship and economic cooperation.

All of my adult life, until my very recent appointment as Minister for Foreign Affairs, I have been a businessman. So today, instead of addressing you in the language of diplomacy, I wish to state my views in a businesslike fashion, and to dwell especially on the trade problems between Japan and the United States.

As you know, only by expanding trade can we in Japan make our living and find employment for our growing population. But expanding our trade has been no easy task. While exports have maintained a favorable tone, large import expansion over the past year has upset our international payment balance and has cut deep into our foreign exchange reserve.

Now, this expansion in imports was deliberately effected under a positive program for modernization and rationalization of production facilities. This modernization is expected to enhance the competitive power of Japanese industry on the world market. Nevertheless, if the country's foreign exchange holding were allowed to continue to dwindle at the rate which prevailed in the beginning of this year, it would cause difficulties in the normal operation of the national economy itself.

Since this spring, the government has instituted a series of control measures. Among these are: raising of the bank of Japan discount rate, stiffening of the curbs on loans to city banks, and postponement or curtailment of government investment and loan programs. These measures were intended to check excessive domestic consumption and investment and to encourage export trade. Happily, these measures, which have been in effect only a few months, are already beginning to bear fruit. For instance, wholesale prices dropped 7.6 per cent from the middle of April to the middle of

August.

August. As regards foreign trade, imports have begun to fall off conspicuously since June, while exports continue to maintain a comparatively high level. With this new trend, our foreign exchange account may now be expected to be balanced in the not too distant future.

Now let me turn to the current trade relations between Japan and the United States. The weight of America in Japan's foreign trade is exceedingly great. Some 35 per cent of Japan's total imports comes from the United States, and some 20 per cent of her exports find their way to the United States. Indeed, as you know, America ranks first in Japan's foreign trade -- both export and import. And Japan, next to Canada, is America's foremost export market.

Japan is, of course, aware of the risk involved in excessive concentrations of overseas markets and is constantly striving to open up new markets in all parts of the world. But in the face of the existing situation -- a situation in which dollars can be earned only in a few countries such as the United States and West Germany -- Japan's export trade is faced with difficulties all around. Among these difficulties is the growth of economic regionalism as is seen in the formation of the West European Common Market System. Under these circumstances, and despite Japan's endeavors to cultivate new markets, the relation of the American market to Japanese export trade is of ever greater importance. In all candor, maintenance and development of the American market is a matter of life or death to the Japanese economy.

Needless to say, the Japanese government is doing everything possible to prevent Japanese exports to the United States expanding too rapidly or from concentrating unduly on specific items. At the same time, our government has done its best to see that cheap articles or poor quality are not shipped to the United States and that our trading circles exercise all care to establish an orderly export plan -- a plan that will not affect adversely the domestic industries of America. It is our policy and intention to continue these efforts in the years ahead.

The United States, as we all know, commands the most powerful position in world economy and, since the war's end, has been a

strong

strong advocate of liberalization of international trade. If now, however, the United States should tighten her import restrictions against foreign merchandise through tariffs or by other means, it would produce, I fear, immeasurable repercussions throughout the world. For one thing, other countries, faced with an aggravated trade deficit, and suffering acutely from dollar shortage, would certainly follow the leader. And postwar world trade, which has taken to the bold and healthy road of liberalization, would reverse its course. Inevitably, there would be a shrinkage of world trade and ultimately a dislocation of world economy. And I would be less than candid if I failed to point out that this could only deal a serious blow to the free world -- a blow that would not only do economic harm but would also breed dangerous political problems.

There is another factor in the question of American import restrictions on Japanese merchandise which should be noted. The Japanese industries involved in export to the United States are composed of a great many medium and small enterprises. Accordingly, what may appear to America a trifling cut in imports is a fatal blow to these modest enterprises in Japan. It is not simply a question of the amount of the dollars involved; in a number of cases the very livelihood of entire Japanese towns and cities is at stake.

I should say at this point that because of a lack of adequate first-hand information we have sometimes failed to comprehend and anticipate the effects of our trade efforts in the United States. Accordingly, it has been proposed in Japan that we seek an exchange of information and opinion between the business circles of our two countries. In this way, it is hoped that we could take the necessary and appropriate measures to insure that expansion of Japanese-American trade is carried forward on an orderly basis. This proposal is now under serious study by my government.

Japanese-American cooperative relations embrace broad and varied fields -- political and cultural as well as economic. And in each and every field we must seek to remove irritants wherever they are discovered and thus to make our good relations even better. An obstacle in one field is liable to affect cooperation in other fields and even to produce further irritants.

Now,

Now, the Japanese-American cooperative relationship is not only a matter between the two governments but also a matter between the peoples of the two countries. In the establishment of a true and a close cooperative relationship between our two nations in every field, no one can over-estimate the role played by the Japan Society, the Japanese Chamber of Commerce of New York and the Far East-America Council.

Let me conclude by paying my tribute to your fine organizations for the splendid contributions you are making to the cause of Japanese-American friendship and cooperation.

Thank you.

Address of Foreign Minister Fujiyama
at the luncheon given by
the Japan-America Society of Washington.

September 25, 1957.

President Sayre, Distinguished Guests, Members and Friends of the Japan-America Society of Washington:

I am very much honored by your cordial reception and hospitality.

This hotel, the Willard, in which you are holding your meeting today is where the first official diplomatic mission from Japan stayed when it came to Washington in 1860. I am deeply touched by the opportunity that has been given to me to speak to you, the friends of Japan, in this significant place in the century-long history of Japanese-American friendship. As we embark upon the second century of our relations, let us inject into our intercourse the same freshness, vigor, hope and enthusiasm as undoubtedly characterized the thoughts and actions of our forbears a century ago.

My principal purpose in coming to the United States at this time was to attend the opening of the 12th Session of the United Nations General Assembly. Taking advantage of the opportunity afforded by this visit, I have come to Washington to become personally acquainted and to exchange views on some of our mutual problems with Secretary Dulles and other leaders of the United States Government by way of following up the basic understandings established during the visit here of Prime Minister Kishi last June.

The Washington talks between Mr. Kishi and President Eisenhower were historically significant and successful. As you know, they laid an enduring and firmer basis of Japanese-American cooperation and set the direction in which our two countries should proceed. But however well laid the keel, the entire structure of Japanese-American friendship must be made strong and the people manning the ship must maintain the highest level of teamwork in order to weather any situation in the turbulent sea of international affairs.

As the new Foreign Minister in Mr. Kishi's administration, I am a new member of the crew, but I am second to none in my resolve

to

to strengthen Japanese-American cooperative relations in pursuit of our common objective to secure peace based upon freedom and justice and to promote the welfare of peoples not only in Asia, where Japan's own relations are close, but also throughout the world.

The objectives we are trying to attain are the same. But in the complicated and changing tides of international affairs there may be occasion when we might have to change our course temporarily in accordance with weather condition. However, our ultimate destination is the same and basically our course is the same. It is with this firm conviction that we of Japan are steering our course.

There are a number of problems in Japanese-American relations which require our constant thought and attention. Time does not permit me to go into all of them. But as an individual with a primarily business background, my interest and concern naturally focus upon trade relations between Japan and the United States.

In trade we find a particularly strong tie between our countries. As you all know, Japan is greatly dependent upon trade with the United States. In order to support our large population and maintain economic and social stability, we must stabilize our ties with the markets of the world and make constant efforts to strengthen them on an expanding basis.

From the end of last year into this year, Japan's foreign exchange reserves dwindled as a result of excess in imports. Consequently we have had to enforce policy of retrenchment. This was caused by an excessively high tempo of our industrial development and expansion, requiring heavy imports of capital goods and construction material. But this was not accompanied by a commensurate increase in exports. And so by enforcing tighter credits on imports and other necessary measures we have had to make adjustments. It can now be said that this policy has produced results and hope may now be held that we may balance our international payments in the not too distant future.

We in Japan are aware, however, that in order to attain a viable economy and provide for the needs and welfare of our population, we must continue to expand the scale of our economy at the rate of some seven per cent a year at least. To do this we must import the many industrial raw materials and equipment

which

which we lack. And to pay for them we must expand our exports. The whole question of our national existence, and indeed our position of bulwark of freedom in Asia, depends upon how well we provide for our economic growth while balancing our international payments.

All this depends upon stable and prosperous conditions in world markets, upon the good will of nations which follow the principle of "live and let live."

In this respect, the whole free world looks to the United States for leadership. Japan, to whom trade with the United States is a vital matter of life or death, views with particularly deep interest and concern the trends in this country with respect to foreign trade problems. This explains why our people are sensitive about problems of trade. Any move in the United States to restrict imports from Japan -- even though it may have no particular importance in this country -- has an immediate and harmful effect on the industry concerned in Japan and even more widely an unfavorable impact upon Japanese public opinion. It is utilized by those who seek to alienate Japan and America by inciting popular sentiment. In these times when the so-called cold war is somewhat receding, but when international communism is intensifying its efforts in the political-economic sphere, our countries cannot and should not by their own acts provide cause for bringing harm upon their mutually beneficial relations.

We recognize that some of the responsibility lies on our side. That is why the Japanese Government and business circles concerned are doing all in their power to improve quality and stabilize prices and are taking measures to ensure the orderly marketing of our export goods. But as trade is a two-way street, it is my sincere hope that business and government on both sides will make earnest and constant efforts to build up our trade relations in a manner that will be to our mutual benefit and strengthen our cooperative relations.

It is my deep conviction that the broad future of our relations greatly depends upon the leadership of men and women like yourselves -- people who are sincerely dedicated to the cause of Japanese-American understanding and friendship. In this sense, it has been a source of particular delight to me to attend this meeting.

You

You reflect broad and limitless interest in the people of Japan as people and in their cultural heritage and human aspirations. Societies like yours seem to me to be the makers of agreeable climates and attitudes of mind that contribute so enormously and so constructively toward true understanding and friendship between our countries.

In closing may I pay tribute to this society and its splendid membership and wish you every success in all your endeavors.
Thank you.

Appendix

United States-Japanese Discussions
September 23, 1957
(Press Release)

Foreign Minister Aichiro Fujiyama and Secretary of State Dulles met for two hours this afternoon for discussion of subjects of mutual interest to Japan and the United States. The Foreign Minister was accompanied by Ambassador to the United States Koichiro Asakai, Mr. Shinichi Kondo, Director of the Public Information and Cultural Affairs Bureau in the Japanese Foreign Office and Mr. Toshiro Shimanouchi, Counselor of the Japanese Embassy in Washington. Present with Secretary Dulles were Deputy Under-Secretary C. Douglas Dillon and Assistant Secretary of State for Far Eastern Affairs Walter S. Robertson.

The Japanese Foreign Minister and the U.S. Secretary of State reviewed the progress made in implementing the understandings reached by the President of the United States and the Prime Minister of Japan in June 1957. Mr. Fujiyama expressed the satisfaction of his government for the establishment of the Japanese-American Committee on Security and for the effectiveness which this Committee already has displayed in promoting cooperation and understanding beneficial to both nations. He commented favorably on the promptness with which the United States had implemented the reduction of United States Forces in Japan in accordance with assurances given to the Prime Minister.

The Foreign Minister and the Secretary of State discussed particularly the general subject of disarmament and the cessation of nuclear testing, as to which both had spoken at the United Nations.

The Foreign Minister drew attention to the mutual importance of United States-Japanese trade and made special mention of the heavily adverse Japanese balance of trade with the United States. The Secretary expressed his understanding of the concern of Japan with reference to its foreign trade. He pointed out that the United States considers the economic viability of Japan one of the essential elements of stability in the Far East.

Foreign Minister Fujiyama will call upon Secretary of Agriculture Ezra T. Benson, Secretary of Commerce Sinclair Weeks and Secretary of Defense Charles E. Wilson on September 24.